



## ちりょう ちゅうだん お 歯の治療を中断することで起きてしまうトラブル

歯が痛くなって歯医者に通い始めたが、痛みがなくなったり、忙しくて通えなかったり、ついつい治療を途中で中断してしまった経験のある人はいませんか？ 今回は、歯の治療を途中で中断してしまったことで引き起こるトラブルについて、いくつかお話していきたいと思います。

### “歯の神経”を取ったままの状態<sup>じょうたい</sup>で中断してしまった場合

神経を取り除く治療を行なった後や、歯の根<sup>ね</sup>の治療を行っている途中など、主に歯の内部<sup>ないぶ</sup>の治療を行っているときは、途中で中断してしまうと後のダメージが特に大きくなってしまいます。

歯の内部はとても抵抗性<sup>ていこうせい</sup>が弱い<sup>ほうち</sup>ため、治療が途中のまま放置されると、虫歯が進行してきたり、根の内部が汚れたりしてしまいます。

根の治療は通院に回数がかかることもありますが、しかし、ここで中断してしまうと歯の寿命<sup>じゅみょう</sup>を一気に縮めることにもつながってしまいます。



### “仮歯”<sup>かりば</sup>を着けたままの状態<sup>じょうたい</sup>で中断してしまった場合

治療中の歯でも一時的に見た目を元に戻せるのが、プラスチック状のもので作られた仮歯<sup>かりば</sup>です。

これは素材上、長期間の使用に耐えることはできませんが、手軽で見た目も良いため、さし歯を被せる前などによく使われることがあります。

しかし、このプラスチック状の仮歯は、使用していると次第に磨り減ってしまうのです。

そして、磨り減ってしまうとその分歯が動いてしまうことも多く、改めて治療を再開しても中断前と状況が変わってしまっているため、追加で歯を削ることになったり、場合によっては神経を残せるはずだった歯の神経を取り除かなければならなかったりすることもあるのです。

### “歯の型”<sup>かた</sup>を取った後、さし歯<sup>さし</sup>を着ける前に中断してしまった場合

歯の型を取ると、それをもとに歯科技工士と呼ばれる専門家によって、さし歯などが手作業で作られます。

歯は口の中で少しずつ移動することも多いので、歯の型を取った後はできれば時間を開けず、完成したさし歯を取り付けるほうが精度の面では良い結果となります。

しかし、型を取ってからしばらく時間が経過してしまうと、完成したさし歯とさし歯の土台になる歯がうまく合わなくなることもあり、さし歯の取り付けに時間がかかってしまったり、最悪の場合には再び歯の型を取り直してさし歯を作り直すこともあるのです。

いかがでしたか？

治療を中断してしまった結果、数年後に大変な状態になってしまった…。

そんな事態をなくすためにも、今回のお話で気になったことがある方は、ぜひ一度、歯科医師に相談してみることをオススメいたします。